

過敏性腸症候群(IBS)に関する臨床研究のお知らせ

過敏性腸症候群(IBS)とは？

腸に明らかな病変がないにも関わらず、長期にわたって、腹痛・下痢・便秘などが続く消化器疾患です。IBSで下記の症状の方に研究への参加をお願いしています。

- ✓ お腹の調子が悪くなるので、外出するのが怖い
- ✓ 会議や電車など、お腹が原因で日常生活に支障がある



研究内容

IBSに対して標準的治療に加えて認知行動療法を実施すると効果があるかを検証する研究を行います。

①②のいずれかの治療グループに割り振られます。

- ① IBSの標準的治療
- ② IBSの標準的治療に認知行動療法を加えた治療

研究に参加することに同意された後、いずれの治療方法かは「ランダム(無作為)に決める方法」で決められます。

わが国では認知行動療法がIBSに効果があるかまだ判明していません。

ご参加いただける方

1. これまでIBSの治療を受けた経験があり、かつ現時点においても症状が残っている方(症状が中程度以上の方を対象としています)
 2. 年齢が16歳以上の方
 3. 本研究の目的、内容を理解していただける方
- 上記以外にも研究に参加いただくための基準があります

研究実施概要

実施場所	東京大学医学部附属病院 心療内科外来
募集期間	2018年11月から2020年3月(第1期締め切り) (参加者数が多い場合、早期に締め切ることがございます)
協力期間	約4ヵ月(定期的な通院) その後、3ヵ月後に1度アンケートを郵送でお願いさせていただきます。
治療費	「標準的治療」には通常の保険診療費がかかります。 それ以外は、研究参加費として無料です。

ご関心・意欲のある方には、研究の詳細をお知らせします。



: cbtie-project@umin.ac.jp

すぐメール
を送れます



「件名:研究案内希望」とした空メールをお送りください。

ご質問もお受けしております。お気軽にお問合せください。

- ✓ スクリーニング面接で、参加の基準に当てはまらない場合や定員を超えた場合には、ご参加頂けないことや、治療に入るまでにしばらくお待ち頂く場合がございます。あらかじめご了承ください。

東京大学医学部附属病院 心療内科
〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

研究題名:過敏性腸症候群に対する認知行動療法の無作為化比較試験
連絡担当者:山崎允宏

